

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成24年11月2日

【四半期会計期間】 第47期第2四半期
(自平成24年7月1日至平成24年9月30日)

【会社名】 西菱電機株式会社

【英訳名】 SEIRYO ELECTRIC CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 西岡 伸明

【本店の所在の場所】 兵庫県伊丹市藤ノ木三丁目5番33号

【電話番号】 072(771)3811(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 経営企画本部副本部長 藤原 敏夫

【最寄りの連絡場所】 兵庫県伊丹市藤ノ木三丁目5番33号

【電話番号】 072(771)3811(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役 経営企画本部副本部長 藤原 敏夫

【縦覧に供する場所】 株式会社大阪証券取引所

(大阪市中央区北浜一丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第46期 第2四半期 連結累計期間	第47期 第2四半期 連結累計期間	第46期
会計期間		自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日	自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日	自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日
売上高	(百万円)	5,220	6,149	15,373
経常利益(は損失)	(百万円)	113	86	105
四半期純利益 又は四半期(当期)純損失()	(百万円)	82	54	463
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	90	47	467
純資産額	(百万円)	4,566	4,184	4,189
総資産額	(百万円)	6,169	5,863	9,666
1株当たり 四半期純利益金額 又は四半期(当期)純損失金額()	(円)	23.70	15.67	132.38
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額	(円)			
自己資本比率	(%)	74.01	71.36	43.34
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	371	150	510
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	26	4	96
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	72	53	74
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	1,336	1,195	1,404

回次		第46期 第2四半期 連結会計期間	第47期 第2四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成23年7月1日 至 平成23年9月30日	自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日
1株当たり四半期純利益金額	(円)	8.48	14.89

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、第47期第2四半期連結累計期間は潜在株式が存在しないため記載しておりません。第46期第2四半期連結累計期間及び第46期は1株当たり四半期(当期)純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当社グループは、情報通信端末の販売及び修理並びに映像を含む情報通信機器及びシステムの販売・保守・運用を主な事業としております。

当社は、三菱電機株式会社より23.2%の出資を受けており、同社の関連会社であります。

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の異常な変動等又は、前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間における国内の景気は、震災復興予算による官公需の増加、エコカー補助金などの政策特需に支えられたものの、内需の自律回復力は弱く、欧州金融不安や中国経済の減速、円高の長期化などもあり、依然として先行きが不透明な状況にあります。

当社グループの関連する業界では、情報通信端末事業におきましては、スマートフォンやタブレット型多機能端末市場が急成長を続けています。情報通信システム事業におきましては、東日本大震災被災地における復旧・復興や、全国各地における台風襲来や豪雨被害など、国民の安心・安全な暮らしを守る社会インフラの整備・強化が求められています。

このような状況下、当社グループの売上高は、前年同期は東日本大震災に起因する減収要因がありましたが、当四半期連結累計期間は、携帯販売がスマートフォン市場の拡大に伴い好調であったことや、前年度自社開発しました店舗運営システムを拡販したこと、情報通信システム事業における三菱電機株式会社向け直接取引が拡大したことなどから、前年同期に比べ増収となりました。これに加え、情報通信システム関連開発投資が後倒しになったことや、経費支出を抑制したことなどにより販売費及び一般管理費が減少し、営業利益・経常利益・四半期純利益は、前年同期に比べ増益となりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の業績は、売上高61億49百万円（前年同期比17.8%増）、営業利益91百万円（前年同期は営業損失1億12百万円）、経常利益86百万円（前年同期は経常損失1億13百万円）、四半期純利益54百万円（前年同期は四半期純損失82百万円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

情報通信端末事業

情報通信端末事業におきましては、携帯販売がスマートフォン市場の拡大に伴い好調であったことや、前年度自社開発しました携帯電話ショップにおけるお客様の利便性向上と店舗スタッフのオペレーション管理機能を備えた店舗運営システムを拡販したことなどにより、前年同期に比べ増収となりました。これらに加え、前年度末に低採算パソコン販売店舗を閉店したことなどから、前年同期に比べ増益となりました。

これらの結果、情報通信端末事業での売上高は33億87百万円（前年同期比24.0%増）、営業利益は1億20百万円となりました。

情報通信システム事業

情報通信システム事業におきましては、前年同期に比べ、三菱電機株式会社向け陸上端局装置の社内検査・現地調整業務が増加しました。その他、新東名高速道路上におけるCCTVカメラを用いた監視システムを納めました。京都・阪神競馬場の映像配信運営をはじめとする既存の各種システム保守業務などのストックビジネスは、引き続き堅調に推移しました。また、前期に自社開発しました携帯電話網を活用した車両動態管理（AVM）システムの拡販に努めました。

これらの結果、情報通信システム事業での売上高は27億61百万円（前年同期比11.0%増）、営業損失は29百万円となりました。

なお、情報通信システム事業における官公庁向けの売上高は、通常の営業形態として、第4四半期に完成する割合が大きいため、業績に季節的変動があります。

(2) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ2億8百万円減少し、11億95百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は、次のとおりであります。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果、使用した資金は1億50百万円（前年同期は3億71百万円の収入）となりました。これは主に、売上債権の減少により資金が35億52百万円増加しましたが、仕入債務の減少により資金が35億82百万円減少したことや、賞与引当金の減少により資金が1億14百万円減少したことなどによるものです。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果、使用した資金は4百万円（前年同期は26百万円の支出）となりました。これは主に、有形固定資産の売却により資金が37百万円増加しましたが、有形固定資産の取得により資金が45百万円減少したことなどによるものです。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果、使用した資金は53百万円（前年同期は72百万円の支出）となりました。これは主に、配当金の支払により資金が52百万円減少したことなどによるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第2四半期連結累計期間における当社グループの研究開発の目的、内容、成果及び研究開発費は次のとおりであります。

・情報通信端末事業

該当はありません。

・情報通信システム事業

安心・安全をキーワードとした、顧客ニーズに合致するシステム・製品・サービスの提供を拡充すべく、各種情報通信システムの開発に注力しております。これらの情報通信システム事業における研究開発費は28百万円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	12,000,000
計	12,000,000

【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成24年9月30日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年11月2日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	3,500,000	3,500,000	大阪証券取引所 市場第二部	単元株式数 1,000株
計	3,500,000	3,500,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成24年7月1日～ 平成24年9月30日		3,500		523		498

(6) 【大株主の状況】

平成24年9月30日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
三菱電機株式会社	東京都千代田区丸の内2 - 7 - 3	812,000	23.20
西岡 伸明	大阪府豊中市	614,000	17.54
西岡 孝	大阪府豊中市	280,000	8.00
西菱電機従業員持株会	兵庫県伊丹市藤ノ木3 - 5 - 33	189,000	5.40
竹田 和平	名古屋市天白区	100,000	2.85
株式会社三菱東京UFJ銀行	東京都千代田区丸の内2 - 7 - 1	83,000	2.37
三菱UFJ信託銀行株式会社	東京都千代田区丸の内1 - 4 - 5	59,000	1.68
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1 - 1 - 2	48,000	1.37
秦 康明	大阪市城東区	41,000	1.17
後呂 勝博	兵庫県三田市	40,000	1.14
計		2,266,000	64.74

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,000		単元株式数 1,000株
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,498,000	3,498	単元株式数 1,000株
単元未満株式	普通株式 1,000		
発行済株式総数	3,500,000		
総株主の議決権		3,498	

(注) 「単元未満株式」には、当社所有の自己株式631株が含まれております。

【自己株式等】

平成24年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 西菱電機株式会社	兵庫県伊丹市藤ノ木 三丁目5番33号	1,000		1,000	0.03
計		1,000		1,000	0.03

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間(平成24年7月1日から平成24年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,411	1,196
受取手形及び売掛金	5,577	2,025
商品	387	335
仕掛品	94	194
原材料	125	140
繰延税金資産	188	173
その他	317	273
貸倒引当金	0	0
流動資産合計	8,102	4,338
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,145	1,142
減価償却累計額	602	612
減損損失累計額	105	105
建物及び構築物(純額)	436	424
機械装置及び運搬具	983	983
減価償却累計額	905	922
減損損失累計額	1	1
機械装置及び運搬具(純額)	77	59
工具、器具及び備品	449	457
減価償却累計額	278	289
減損損失累計額	31	31
工具、器具及び備品(純額)	138	135
土地	237	237
建設仮勘定	18	36
有形固定資産合計	909	895
無形固定資産	46	36
投資その他の資産		
投資有価証券	94	74
前払年金費用	70	74
繰延税金資産	107	102
その他	389	381
貸倒引当金	54	39
投資その他の資産合計	608	593
固定資産合計	1,564	1,524
資産合計	9,666	5,863

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (平成24年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,490	907
1年内支払予定のリース債務	1	1
未払法人税等	12	12
賞与引当金	208	93
短期解約損失引当金	4	6
その他	655	553
流動負債合計	5,372	1,574
固定負債		
リース債務	3	2
退職給付引当金	10	10
資産除去債務	21	21
その他	70	68
固定負債合計	104	104
負債合計	5,477	1,679
純資産の部		
株主資本		
資本金	523	523
資本剰余金	498	498
利益剰余金	3,157	3,159
自己株式	1	1
株主資本合計	4,178	4,180
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11	4
その他の包括利益累計額合計	11	4
純資産合計	4,189	4,184
負債純資産合計	9,666	5,863

(2)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
売上高	5,220	6,149
売上原価	3,931	4,581
売上総利益	1,288	1,567
販売費及び一般管理費	1,401	1,476
営業利益又は営業損失()	112	91
営業外収益		
受取利息	0	0
受取配当金	1	1
その他	4	2
営業外収益合計	5	3
営業外費用		
支払利息	0	0
支払手数料	2	2
固定資産除却損	1	4
その他	2	1
営業外費用合計	6	8
経常利益又は経常損失()	113	86
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失()	113	86
法人税、住民税及び事業税	10	6
法人税等調整額	41	25
法人税等合計	30	31
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	82	54
四半期純利益又は四半期純損失()	82	54

【四半期連結包括利益計算書】
 【第2四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益又は少数株主損益 調整前四半期純損失()	82	54
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	7	7
その他の包括利益合計	7	7
四半期包括利益	90	47
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	90	47
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

(3)【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失()	113	86
減価償却費	86	65
賞与引当金の増減額(は減少)	139	114
受取利息及び受取配当金	1	1
支払利息	0	0
固定資産除売却損益(は益)	0	2
売上債権の増減額(は増加)	2,514	3,552
たな卸資産の増減額(は増加)	91	62
仕入債務の増減額(は減少)	1,735	3,582
その他	137	89
小計	381	144
利息及び配当金の受取額	1	1
利息の支払額	0	0
法人税等の支払額	10	6
営業活動によるキャッシュ・フロー	371	150
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	-	6
有形固定資産の取得による支出	27	45
有形固定資産の売却による収入	-	37
無形固定資産の取得による支出	4	2
投資有価証券の売却による収入	-	9
その他の収入	7	34
その他の支出	1	44
投資活動によるキャッシュ・フロー	26	4
財務活動によるキャッシュ・フロー		
長期借入金の返済による支出	12	-
ファイナンス・リース債務の返済による支出	7	1
配当金の支払額	52	52
財務活動によるキャッシュ・フロー	72	53
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	272	208
現金及び現金同等物の期首残高	1,064	1,404
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,336	1,195

【会計方針の変更等】

当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更) 当社及び連結子会社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。 これによる当第2四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微であります。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
原価差異の繰延処理	季節的に変動する操業度により発生した原価差異のうち、原価計算期間末までにほぼ解消が見込まれるものについては、当該原価差異を流動資産(その他)として繰り延べております。

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

- 1 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
給与及び賞与	538百万円	600百万円
賞与引当金繰入額	29百万円	53百万円
退職給付費用	43百万円	21百万円

- 2 売上高の季節的変動

前第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)及び当第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

当社グループの情報通信システム事業における官公庁向けの売上高は、通常の営業の形態として、第4四半期に完成する工事の割合が大きいため、業績に季節的変動があります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

- 1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係は、次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)
現金及び預金	1,344百万円	1,196百万円
預入期間が3か月を超える定期預金	7百万円	1百万円
現金及び現金同等物	1,336百万円	1,195百万円

(株主資本等関係)

前第2四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月28日 定時株主総会	普通株式	52	15	平成23年3月31日	平成23年6月29日	利益剰余金

当第2四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年9月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月26日 定時株主総会	普通株式	52	15	平成24年3月31日	平成24年6月27日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第2四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額	合計
	情報通信 端末事業	情報通信 システム 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	2,733	2,487	5,220		5,220
セグメント間の内部 売上高又は振替高					
計	2,733	2,487	5,220		5,220
セグメント利益 又は損失()	62	175	112		112

(注) セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

当第2四半期連結累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年9月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント			調整額	合計
	情報通信 端末事業	情報通信 システム 事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,387	2,761	6,149		6,149
セグメント間の内部 売上高又は振替高					
計	3,387	2,761	6,149		6,149
セグメント利益 又は損失()	120	29	91		91

(注) セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額又は四半期純損失金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第2四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年9月30日)
1株当たり四半期純利益金額 又は四半期純損失金額()	23円70銭	15円67銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額 又は四半期純損失金額()(百万円)	82	54
普通株主に帰属しない金額(百万円)		
普通株式に係る四半期純利益金額 又は四半期純損失金額()(百万円)	82	54
普通株式の期中平均株式数(株)	3,498,369	3,498,369

- (注) 1. 前第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2. 当第2四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年10月29日

三菱電機株式会社
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 川 合 弘 泰

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊 東 昌 一

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている三菱電機株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間(平成24年7月1日から平成24年9月30日まで)及び第2四半期連結累計期間(平成24年4月1日から平成24年9月30日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、三菱電機株式会社及び連結子会社の平成24年9月30日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。